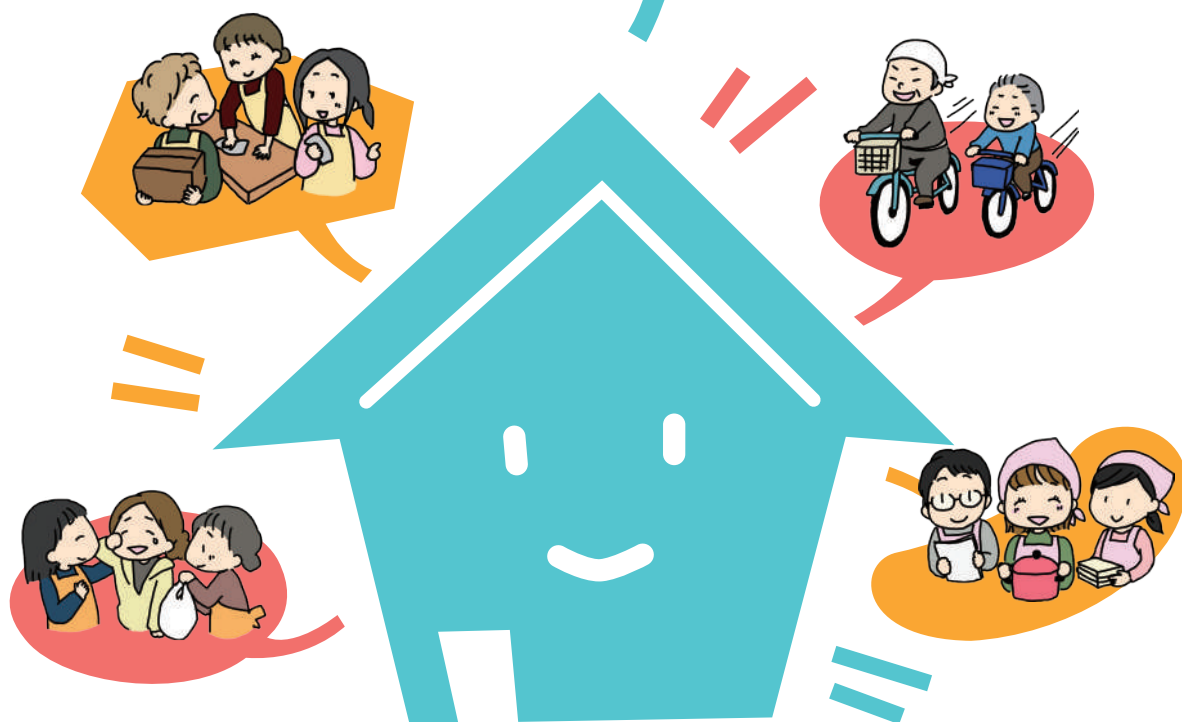


こども食堂エピソードブック

ある日の こども食堂

“ちょっと気になる子”との関わり



編集・発行



NPO法人 全国こども食堂支援センター

むすびえ

はじめに

こども食堂の方々は、日々たくさん子どもやその家族とお会いしていることと思います。その中で、「あれ？この子の様子ちょっと変だな」「この子はおうちでちゃんとご飯食べられているのだろうか」など、“ちょっとしたこと”に気づくことがあるのではないのでしょうか。こうした子どもたちやご家族には、多めにご飯を食べさせたり、来なかった時は電話で様子を聞いたり、“ちょっとした支え”をされていることも多いと聞いています。

こうした“ちょっとした支え”は、こども食堂の方々にとっては普段からされていることで、特別なことではないかもしれません。ただ私たちは、こうした“気づき”や“支え”が、こども食堂ならではの大事な役割なのではないか、と感じました。

この冊子は、こども食堂のこうした役割を、実際のこども食堂の方々のお話を基に、事例としてまとめたものです。こども食堂の方々に読んでいただき、「そうそう、こども食堂ってそういうこともあるよね」って思っていたいたり、「そんな取り組みをしているこども食堂もあるんだ」と参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、この冊子を作成するに当たってご協力いただきましたこども食堂の皆様、文字起こしなどで協力いただいたボランティアスタッフの皆様、資金面でご支援いただいたNPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様、そしてこの冊子を手にとってくださった皆様に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

全国こども食堂支援センター・むすびえ
プロジェクトリーダー

山角 直史

2021年3月

目次

INDEX

ある日
こども食堂

- 2 はじめに
- 3 目次
- 4 “ちょっと気になる子”とは？
- 5 この冊子の使い方
- 6 メモ・スタッフ紹介

第1章 | こども食堂と気になる子との“出会い”

- 8 事例 01 大雪の日の電話から
- 12 事例 02 机ガタガタかなたくん
- 16 事例 03 お母さんも困ってる
- 20 事例 04 わたしにもできる

第2章 | こども食堂の“工夫”

- 24 事例 05 たかこちゃんシンデレラ計画！
- 28 事例 06 次はどこに遊びに行こう？
- 32 事例 07 ママ友として

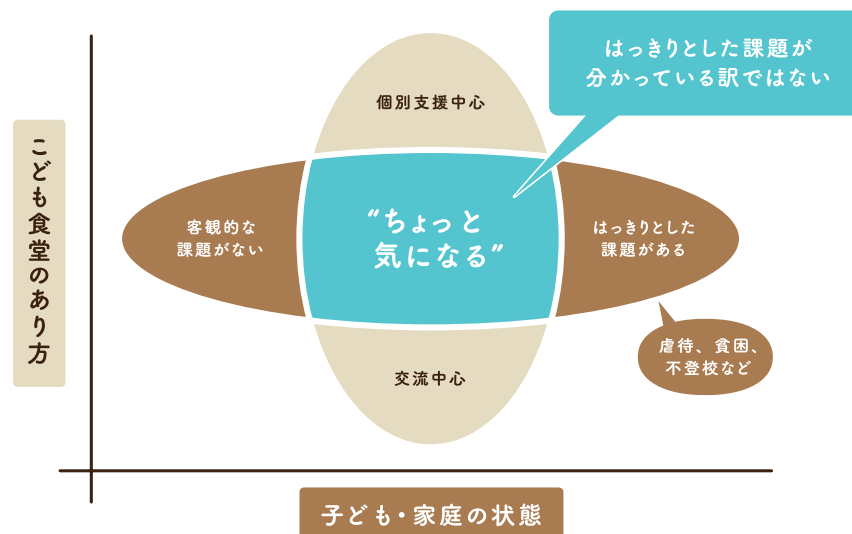
第3章 | こども食堂の“暖かさ”

- 36 事例 08 花柄のテーブルクロス
- 40 事例 09 「わたし、シングルだってわかる？」
- 44 事例 10 「困っている子」なおくん

- 48 こども食堂運営者のみなさんの思い
- 50 まとめ
- 51 クレジット

“ちょっと気になる子”とは？

この冊子で取り上げる”ちょっと気になる子”とはどういう状態の子どものことを指すのか、簡単にご説明します。以下の図をご覧ください。



この図は、こども食堂のあり方をタテにとり、子ども・家庭の状態をヨコにとっています。こども食堂のあり方は、交流を中心としたものから個別支援を中心としたものまで様々な形があります。その中で、「交流が中心だけど、その中でちょっと気になった子」や、「個別支援でしっかり支えているという訳ではないけれども、何かしらの支えが必要な子」など、交流と個別支援の間の支えを必要とするような“ちょっと気になる子”が今回取り上げるこどもや家庭です。

またヨコ軸を見ると、左に行くほど客観的な課題がない子どもたち、右に行くほどはっきりとした課題がある子どもたちを表しています。右にいる子どもたちは、役所や児童相談所などの支援の対象になります。しかしその手前の”ちょっと気になる”子どもたちには、行政は手を差し伸べることができません。

こうした中間にいる子どもたちへの支えになっているのが、こども食堂ではないかと、私たちは考えています。

この冊子の使い方

この冊子は、こども食堂の運営者の方々に”ちょっと気になる子”と関わった際のお話を伺い、特に印象的だった10の事例をまとめたものです。「こども食堂ってこういうことあるよね！」や、「こういう関わり方もあるんだ！」って思っていたいただけるものを選ばせていただきました。こども食堂を運営されている方々のご参考になるように、またこども食堂に関心をお持ちの方、やってみたい！と思っている方々がこども食堂について知っていただくきっかけになれるように、作成しています。

事例は大きく3章に分けさせていただきました。1章は「こども食堂と”気になる子”との出会い」、2章は「こども食堂の工夫」、3章は「こども食堂の”暖かさ”」をテーマにしています。私たちが「素敵！」と思った点は各事例の最後にまとめています。最初から読んでいただくもよし、目次をご覧ください気になるお話から読むもよし、皆様の好きなように読んでいただければ幸いです。

- ※ 3つの章（テーマ）はあくまで私たちの主観で「素敵！」だと思った所を取り上げさせていただきました。もちろん、どのお話でもこども食堂は気になる子と出会いがあり、様々な工夫をして、暖かく子ども達を受け入れています。
- ※ この冊子の登場人物は全て仮名であり、一部に脚色を加えている場合があります。
- ※ こども食堂運営者の方々にヒアリングした際のお話をできるだけ再現するため、呼び方や敬称（さん、くん、ちゃんなど）はお話に出てきたときのままになっています。

本誌スタッフ紹介

Yamakado



やまかど
(山角直史)

このプロジェクトを通じて、たくさんのこども食堂の方々のお話を伺いました。改めて、こども食堂の“賑わい”と“暖かさ”のどちらも大事なんだなって思いました。是非最後まで読んでいただけると嬉しいです。

Ito



いとう
(伊藤由子)

こども食堂の方々の地域の子どもや家族へのあたたかい関わり、細やかな気遣いあふれる素敵なエピソードをたくさん聞かせていただきました。多くの方に知っていただけたら嬉しいです。

Acchan



あっちゃん
(六鹿篤美)

こども食堂の方々と関わり、お話する中で感じた「すごい!」「素敵!」を、丁寧に言葉にして発信したいという気持ちで、作成してきました。わたしの生きている社会に、こども食堂があってよかったなあ。

Yuasa



ゆあさ
(湯浅誠)

「たいしたことない」「ただのおせっかい」とみなさん言いますが、こんなことしてるんだよ!ということを、多くの人に知ってもらいたくて、作りました。

ボランティアメンバー

大菊健太、小田悠美子、小野寺みゆき、岸野秀昭、小久保真夕、小宮山優樹、坂本竜作、砂山大輔、土橋柚季乃、福澤涼子、福田開史、日野原辰哉、森本早紀、山口穂乃

他1名のご協力をいただきました。ありがとうございました!

第1章

こども食堂と 気になる子との“出会い”

こども食堂を開いている中で、様々なきっかけで“ちょっと気になる子”と出会ったお話の中から、特に印象的な出会いがあったお話をまとめました。

大雪の日の電話から

ヨウコさんは東京のある地域でこども食堂を運営されています。こども食堂歴は5年になります。月一開催で、毎回20～30人程度が参加しているそうです。コロナ禍ではフードパントリーを実施して、子どもやご家族を支えています。

今日はある大雪の日の電話から気づきがあった、中学生のだいすけくんのお話を聞かせていただきました。

登場人物 /

ヨウコさん(運営者)
だいすけくん(中学生)
だいすけくんのお母さん

START!

① だいすけくんからの電話

こども食堂を始めてから一年くらいで、大雪で初めてこども食堂を中止にしたことがあったんですね。会館にも中止の貼り紙をしていて、スタッフもみんな家にいたんです。そしたら、それまでずっと来ていた中学生の男の子から電話がかかってきましてね。今日はやらないんですかって。



POINT //

大雪の中でも電話をくれた時に、こども食堂を大事に思ってくれている子に気づきました。

② だいすけくんのおうちへ

それまで毎回の開催に必死で、あんまりどれだけ求められてるかとか考えたことなかったんですけど、そのとき、あーこんなにも待っていてくれる子がいるんだ～って実感したんですよ。

それだけ大事に思ってくれる子に何かできないかなって、スタッフで相談したんです。そしたらスタッフのひとりがだいすけくんの家の近くだったので、ありあわせのものでおかずを作って、だいすけくんの家まで届けてもらったんです。



POINT //

急がずにだいすけくんと関わり続けたことで、お母さんにもつながることができました。

③ おうちに行ってみると…

スタッフがだいすけくんのおうちに行ってみると、だいすけくんがひとりで待っていたそうなんです。家族には会えなかったみたいですけど、だいすけくんと話していると、おうちがひとり親家庭だっていうことを話してくれたって聞きました。

大雪の日の電話から

4 お母さんからの連絡

それからもだいすけくんはこども食堂に来てくれたんですが、やっぱりお母さんと話すことはしばらくなかったんです。でもだいすけくんのことが気になったんで、こども食堂が終わったら余った食材をだいすけくんに持たせたり、部活で帰りが遅い時は、食材配付の時間が終わった後でも、だいすけくんの分はとっておいたりするようにしたんです。

半年くらいそういうことを続けていると、こども食堂のフェイスブックにお母さんから、ありがとうございますってお礼の連絡が入ったんですよ。その時はびっくりしたけど、お母さんにもつながってるんだなあって思って、嬉しかったですね。

5 お母さんの声

また別の日のことなんですけど、地域の方から寄付で毛布をいただいたことがあって、その話をしたらだいすけくんが、お母さんがいるって言うかもしれないって。だからだいすけくんの家に届けに行ったんです。その時に、初めてお母さんと初めて会えたんですよ。

その日から、お母さんとは連絡を取り合うようになったんです。そしてお母さんは、ちょっとずつとお家の事情を私たちに話してくれるようになっていったんですね。

実はだいすけくんは発達障がいがあって、学校でよくトラブルになっちゃうんだ、とか、学校の先生に相談してもなかなか分かってもらえなくて、とか、すごく苦しい思いをしたことを話してくれました。

一緒にしゃべっていると、お母さんはだんだん明るくなって。とにかく今までではひとりで頑張ってきたけど、こども食堂で一緒に話を聞いてくれて、気持ちを分かってくれる人と出会えてよかった、って言ってくれたんです。

それからはだいすけくんとお母さん一緒にこども食堂に来たてくれたり、お母さんがひとりで来てくれることもあるんですよ。

6 コロナ禍では…

コロナの影響で学校が休校になったときには、こども食堂は中止にしてフードパントリーを開催したんですが、そのときはだいすけくんとお母さんは一緒にフードパントリーに来てくれて、掃除とか荷物運びなんかのお手伝いまでしてくれましたよ。

学校が休みの間はオンライン学習会を開いたんですけど、だいすけくんはすごい集中して勉強してて、びっくりしましたね。



POINT

コロナウイルスの影響でこども食堂はできなくても、つながりは続けました。それによってだいすけくんやお母さんの「居場所」が続けられました。

ここが素敵！

by いとう

雪の日の電話から、こども食堂を待ち望んでいる子がいると感じたヨウコさん。スタッフ同士で何かできないか考え、ご飯をお届けしただいすけくんを思っの細やかな対応がとても素敵です。お母さんとも関わりを重ねて、お母さんが本音を出せる場所になり、親子にとっての大切な居場所になっていったことが分かりました。

机ガタガタかなたくん

マミさんは、2015年に地域の公民館でこども食堂をはじめました。

前からこども食堂に来てくれている子が、友達(かなたくん)を連れてきてくれたのですが…、その子がちょっと気になります。今日はマミさんから、こども食堂でのかなたくんのお話を伺いました。

登場人物 /

マミさん
(運営者)

かなたくん
(小学校3年生)

かなたくんのお母さん



① 机ガタガタ!?

かなたくんは初めて来たとき、なぜかずっと机をガタガタさせていたのよ。こう、テーブルのへりを持ってずっとせわしなく揺れてる感じ。面白いのがね、ニコニコして楽しそうなのよね。遊園地行って「わーい楽しい」っていうんじゃないんだけど、「なんかここって楽しい場所だなあ」とか「よくわからないけどうれしい」という表現がガタガタだったんじゃないかな。ちっちゃい子ってじっとしてられないじゃない? あんな感じ。嬉しさの表現が幼いのかもしいね。

② ゲーム! ゲーム! ゲーム!!

それからね、携帯ゲーム機が手放せなくて、ずっとやってるの。ご飯の時もやりながら食べる感じで、なるべく怒りたくないなとは思ってるんで、さすがに「ご飯の時はやめて」って注意し続けたんだけど、ご飯食べ終わったら真っ先にまたゲーム。依存症なのかなってくらい手放せなくて、とにかくゲームにかじりついてる子だったんですね。

③ ジュースおかわり!

こども食堂の前の時間に、市役所で子ども向けのイベントの日があって、連れてったんだけどね。行きの車でもう「昨日は嬉しくて眠れなかった」とていうんですよ。それくらい普段楽しみがないのかなとも思ってちょっとびっくりしたね。

そのイベントのスタッフをしていた大学生がうまく子どもたちの意見引き出したりして楽しかったみたい。それで、かなたくん、用意してくれたジュースを10杯以上も飲んだみたいで!



市役所のイベントとこども食堂をこんなに楽しみにしてくれるんだって驚きましたね。

4 かなたくん、緊急事態!?

その後は、こども食堂でご飯食べたんだけど、かなたくんの友達が「かなた、おなか壊してトイレから出てこない」って。

30分くらい声かけたんだけど出てこなくて、結局近所のスタッフにズボンと下着取ってきてもらって着替えさせてね。

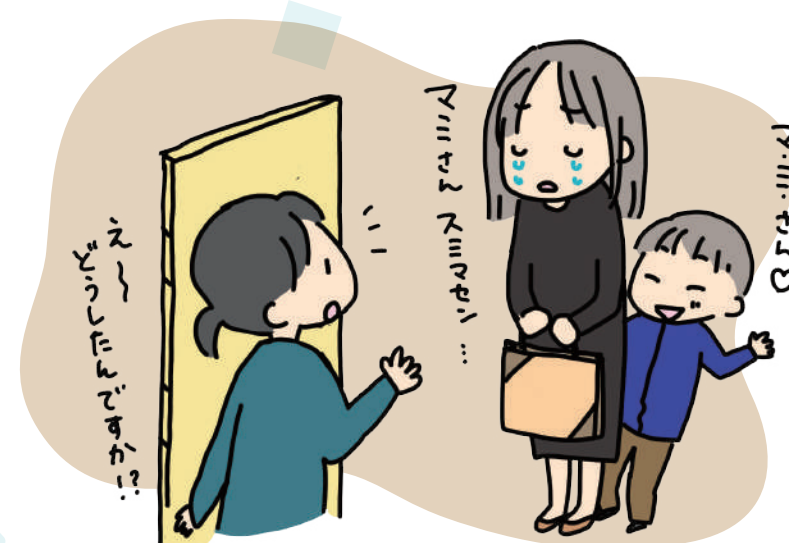
その時はまだ親御さんと面識がなくて、「汚れた下着をお家で見せたら怒られるか?」って聞いたら「怒られる」って言うんで、私が庭の水道で洗ってね。かなたくんはそれを黙ってじっと見てましたね。

それで帰らせたんだけど、新しいズボンがあって下着も1枚増えてるんだから、親御さんから何か言ってくるかなって思ったんだけど、その時は結局何も連絡なくってね。



食材や生活用品の
寄付があると、
かなたくんに持って
帰らせていました。

それから数か月して、親御さんとかなた君がうちに来てくれてね、ドア開けたら菓子折り持ってお母さん泣いてるんですよ。
「今まで、うちの子悪さばかりしてて、どこで何してるのかいつも心配していた。今はマミさんのところに行ってるのがわかって安心してます」って言うんで「私もかなたくんと仲良くなれてうれしいですよ」って話してね。かなたくんもニコニコ嬉しそうにそれを見てね。



5 小さいけど色んな“楽しい”を経験して

今はもう机をガタガタしなくて、なんとなく穏やかな顔つきになってきててね、他で会おうと挨拶がわりに「つぎはいつ?」ってニコニコ寄って来てくれたりね。

そういえばゲームも私の見てるところではやらないくらいになってますね。やっぱり、他の楽しさも覚えてくれたのかなってというのが嬉しいわね。

ここが素敵!

by あっちゃん

机のガタガタや、「嬉しくて眠れなかった」の言葉、ゲームにかじりつく様子、決して派手な問題行動ではない「あれ?」と思ういくつもの小さな言動から、かなたくんを気にかけるマミさんのアンテナや眼差しがすごく素敵。これこそ、こども食堂の得意な優しい“おせっかい”の視点なんだなあ。

お母さんも困ってる

ヤスエさんは、大阪にある団地の中で2018年からこども食堂を始めました。ちょうど3月頃に、新しく駅前に拠点を構えたところでしたが、コロナが広がり始めたためお弁当配布に切り替えて活動しています。同時に相談窓口も設置していて、役所へのつなぎなどにも取り組まれています。

今日はヤスエさんがこども食堂で出会った、現在小学4年生のだいきくんとお母さんのお話について聞かせていただきました。

登場人物

ヤスエさん
(運営者)

だいきくん
(小学校4年生)

だいきくんのお母さん

① だいきくんとのお出会い

だいきくんとは、彼が小学校2年生の時に初めて出会いました。当時は団地の中でこども食堂をやっていたのですが、だいきくんが団地の公園にいて、公園にいたスズメを一人でながめてたんですって。それを見たうちのスタッフのおばちゃんが、「何してるの？こども食堂ご晚饭食べられるけど、来る？」と声をかけたのがきっかけで、こども食堂に来てくれたのが最初のお出いです。

START!



POINT

何気ない出会いから
こども食堂に誘ったことが、
だいきくんとのお出いの
きっかけになりました。

② おうちまで送ってみると…

だいきくんは、こども食堂が終わってもなかなか帰ろうとしなかったんです。どうしたのって聞いてみると、帰りたくないって言うんです。だからおうちまで送っていったんですね。

お母さんの話を聞いてみると、「だいきは発達障がいなんです」「私はだいきのせいでうつなんです」と言っていました。お母さんは溜め込んでいたものを吐き出すようにしゃべって、お母さんも孤立してたんだなって分かりました。



POINT

お母さんとも話すことで、
家族には様々な
困りごとがあることが
分かりました。

③ お母さんとだいきくん

だいきくんはそれから毎週来てくれるようになって、私たちには色々なことを話してくれるんですよ。聞いていると、生活が不規則で不登校状態だったり、食事の時に落ち着きがなくてずっと動き回ったり。他の子とか大人との距離感がやけに近かったり、時には、死にたいとか、僕なんていない方がいいんだとか言っていて、気になるところがいっぱいありました。

4 お母さんから話を聞いてみると…

お母さんは、ご自身の家族環境についても、「私の親も毒親だったから、私も被害者なんだ」って言っていました。だいきくんの不登校についても、お母さんも深夜にゲームをするような生活をしていて、登校の時間になってもだいきくんを起こすことができない状態みたいで。お母さん自身も、困りごとを抱えているんだなって思ったんです。

5 親子へのサポート

私たちはだいきくんをサポートしながら、同時にお母さんの持っている力も引き出せるよう心がけたんです。だいきくんが朝起きれるようにスタッフがおうちを訪問したり、だいきくんがどうしても家に帰れない日はスタッフの自宅に泊まってってもらったりもしました。お母さんにも、パソコンが得意だったので、PTAの仕事をやってもらうことで、お母さんも何かしらに参加してもらえるようにしたんです。



POINT

朝の声かけや
PTAでの役割など、
ちょっとした関わりを
続けました。

6 それから…

でも今までのところ、思っていた通りにはなっていません。だいきくんのお母さんは、最初は積極的にやってくれてましたが、プレッシャーを感じちゃったのかPTA活動への参加を止めてしまいました。お母さんは「こども食堂には関わりたくない」「私の悪口を言っているんだ」ということも言って、だいきくんがこども食堂に通うことも禁止するようになってしまいました。こうした状況は学校や役所の担当の方にも伝えていきます。

だいきくん自身は、お母さんのこともこども食堂のことも好きなので、通うことを禁止されて混乱していました。本人の中で考えていること、気づき始めていることもあるようです。今は、これからどういった関わり方ができるか模索しているところです。



POINT

いつも上手くいく
わけではありませんでしたが、
関わりを
続けています。

ここが素敵！

by やまかど

公園でスズメを眺めていたところに声をかけてこども食堂に来るようになったというお話は、本当にこども食堂ならではの出来事だと思います！だいきくんだけでなく、お母さんも困っていることがあるんじゃないかっていう気づきも、本当に大事な視点です。

わたしにもできる

ミカコさんは、地域でこども食堂を始めて3年になります。

こども食堂は週に3回開催し、様々な子が来ています。

今日はミカコさんから、こども食堂で出会ったちょっと気になる、ある女の子とそのママとの関わりについてお話を伺いました。

登場人物

ミカコさん
(運営者)

みさきちゃん
(小学校4年生の女の子)
みさきちゃんのママ

START!

① みさきちゃん、はじめまして!

みさきちゃんが初めて来たときは、こども食堂を知らない状態なもので「ご飯食べて帰ったら怒られるかもしれないから、食べない」と言っていたので、「ママに一回聞いておいで」って帰らしてね。別の日に来た時はコンビニの三角おにぎり一個だけ持ってきたから、「足りないおかずとか食べなさいね」って言って。

② みさきちゃんママ

その次からはママも一緒に来るようになりました。

本当に子どものこと想ってらっしゃるんだけど、ちょっと言葉使いが荒いというか、きついというかそんなママさんでしたね。

こども食堂に来たときは、パートで疲れて帰ってきても、こども食堂であたたかいご飯を子どもと一緒に食べられたりして、心が和らいだというか、ママにとっても嬉しい場所になったと思うんです。今は、料理のお手伝いに来てくれたり、ここに来てる子たちに話題を提供して楽しませてくれたりするようになったんです。



③ 仲間に入れない

みさきちゃん、友達と一緒にには来るんだけど、遊びの輪に入り切れないときがあって、表情のない顔でひとりぼっちと遠くから見てる感じで。

仲間外れにされてるわけではないんだけど、トランプで「この次のゲームから、みさきちゃんも入れてあげてね」とか声掛けしたりすると、ゲームしてる子たちは「いいよ良いよ! はいりー!」って。でも、みさきちゃんは「このゲームわかるかな?一緒にやれるかな」って不安いっぱいって表情だったかな。とにかく自分に自信がないってところをすごく感じましたね。



わたしにもできる

4 わたしにもできる

でも1年くらい前から自分に自信が出てきたのかな、遊んでる他の子とも普通にしゃべれるようになったのよね。いろんな子と話したり、新しいゲームも子ども同士で教えあって一緒に遊んだり、地域のスポーツ大会のリレーの代表に選ばれたりだとかもしてね！そういうちょっとしたことの積み重ねで、少しずつみさきちゃんも自信が出てきたんだと思うんですね。

今はこども食堂の学習会にも通っていて、学年末のテストもすごく頑張っていました。



ここが素敵！

by あっちゃん

「わからない」「できない」で不安いっぱいのみさきちゃんを何度も遊びの輪に入れた運営者さんのフォローがあって、その1回1回の「できた」がみさきちゃんの自信になっていったはず。きっとママも同じように、ここで沢山の経験をして、気持ちにゆとりができたんでしょうね。

第2章

こども食堂の"工夫"

“ちょっと気になる子”と出会った後、
どのようなかかわりをされてきたのか、
運営者さんの”ちょっと気になる子”との
かかわり方の工夫をご紹介します。

たかこちゃんシンデレラ計画!

マイコさんは、週に1回開催しているこども食堂の代表を務めています。こども食堂はコロナ前からやっていましたが、学校の一斉休校の後は時間差を設けて密を避けながら開催したり、お弁当配布を実施していました。

今日は、教育センターからの紹介で出会った、高校生のたかこちゃんとお話を聞かせていただきました。

登場人物 /

マイコさん
(運営者)

たかこちゃん
(高校生)

① 教育センターからの電話

私たちは毎週土曜日にこども食堂をやってるんですけど、去年の夏頃市の教育センターから電話がきたんですよ。ある高校生の女の子が、お母さんが入退院を繰り返しているシングルファミリーで、家では十分にご飯を食われていないようなので、週に1回温かいご飯を食べさせてくれませんか。私言ったんですけど、お門違いですよ。高校生だったらお客さんじゃなくてボランティアとして誘って見たらどうですか。そして誘ってみますって言われて、次のこども食堂の日にその子来たんです。

START!

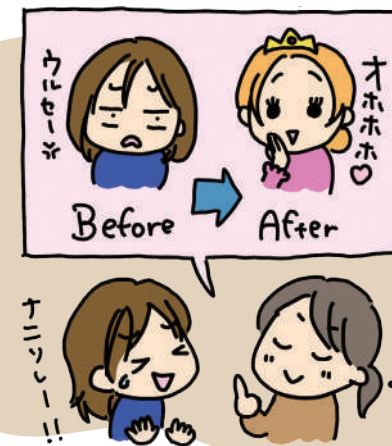


POINT //

きつい言葉遣いで
周りを困らせてしまった
ことを聞きました。

② 「学校、つまねーし」

その子はたかこちゃんっていうんだけど、高校生だから小学生中学生の中でただ食べてると、逆に浮いちゃうかなって思って、働いてもらうようにしたんです。そうして来てもらっていたら、たかこちゃんと一緒に席で食べていた方から、たかこちゃんの言葉遣いが悪くて、今日のこども食堂は楽しなかったって言われたの。たかこちゃんは、「学校つまねーし、進路なんかねーし、行きたくねーし。」って言ってたんですって。



POINT //

ネガティブな
行動や言葉にも、
ポジティブな言葉に変えて
話しました。

③ シンデレラ計画??

それでね、本人に汚い言葉はやめてって言うのも、学校に連絡したりするのも、本人にはネガティブになっちゃうなって思って、どうやってプラスに変えてもらえないかなって考えたんですよ。それで3回目に来てくれた時に、ちょっと別室に呼んで、二人で話したんですよ。そこでね、「たかこちゃんシンデレラ計画っていうの考えたんだけど、やってみない?」って言ってみたの。そしたらたかこちゃんがなにそれってゲラゲラ笑ってくれてね。

たかこちゃんシンデレラ計画!

4 たかこちゃんもきれいになれる

たかこちゃんには、「たかこちゃんはじゃがいもで、まだ土ついているんだよ。土落としたら、汚い言葉もなくなるし、もっときれいになる。」って話したら、もっと笑ってくれて。何をしたかっていうと、うちのスタッフで素敵な方がいるから、たかこちゃんはこども食堂ではひとりで動かないでその人と一緒に動くようにしてもらって、たかこちゃんがもし汚い言葉を使ったら、お尻をぽんぽんってするようにしたんです。

5 ちょっとずつ変わっていくたかこちゃん

そしたら、しばらくはやっぱり汚い言葉も使うことも多くって、そのたびにお尻をぽんぽんってしたんですけど、しばらくしたら変わりましたね～。ものすごい変わったの。まず汚い言葉やマイナスな言葉を使わなくなる。服やアクセサリーを持ってきてプレゼントしてくれたりすることもあった。

たかこちゃんにはシンデレラ計画をマイナスな気持ちでやってほしくなかったの。だからお尻をぽんぽんってするのは、これから自分がきれいになるんだって思ってほしくて。ダメなことはダメだよってはっきり言うようにしてたんだけど、たかこちゃんは1年間欠かさずこども食堂来てくれたのよ。



POINT

たかこちゃんにとって、こども食堂のスタッフなどの大人がモデルになっていました。

6 介護の仕事がしたい!

ある日、隣の市の専門学校から保育の先生が研修で来てくれた日があったんです。たかこちゃんも何か先生から感じてほしいなって思って、その日はその先生についていくように言ったんですね。そしたらたかこちゃんは色々感じるがあったみたいで、今までは進路なんてねえよ! って言ってたのに、その先生がいる専門学校に進路を決めて、今では高齢者の介護の仕事がしたいって言って専門学校に通ってるんです。

7 話していくうちに分かったこと

そうやって話していると、たかこちゃんには、実はお姉ちゃんがいてお母さんと女3人家族なんだけど、お母さんがあまり家事ができないからたかこちゃんが全部家事をやっているって聞いてね。それからは、たかこちゃんにはこども食堂でいっぱい食べてもらって、たくさん食材も持って行ってもらって、この材料はこうやって使うとおいしいよとかって話してるんです。

ここが素敵!

by やまかど

たかこちゃんと一緒にいた人とぶつかってしまった時、マイコさんは参加者とたかこちゃんのどちらも大切にしたいって思われたからこそ、たかこちゃんと向き合って、「シンデレラ計画」という素敵なアイデアを考えられたんだと思います。たかこちゃんと楽しみながら一緒に素敵な人を目指したマイコさんに感動しました!